

枝並補佐	<p>皆さまおはようございます。定刻になりましたので、ただいまから平成 29 年度第二回新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を開催いたします。</p> <p>本日の進行をさせていただきます、課長補佐の枝並と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>渡邊委員から少し遅れるとの連絡が入っておりますので、先に始めさせていただきたいと思います。会議録の公開のために議事を録音して会議録を作成いたしますので、あらかじめご了承くださいと思います。</p> <p>まずはじめに、担当課の地域教育推進課長の緒方からあいさつを申し上げます。</p>
緒方課長	<p>皆さまおはようございます。昨日上着がいらぬほど暖かな日差しが出まして今日も引き続いて大分暖かな日になりました。春がようやく近づいてきたなというふうに感じておるところでございます。同時にちょっと鼻がムズムズしております、皆さま大丈夫でいらっしゃいますでしょうか。花粉症の季節でもあります。</p> <p>大変お忙しい中、皆さまからお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>平成 29 年度新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会第 2 回目を開催させていただきたいと思っております。この地域と学校パートナーシップ事業につきましては、皆さまのご尽力のおかげで 11 年目を終了するところになりました。これまでこの運営協議会の中での貴重なご提言を毎年ちょうだいし、それを改善に生かす形で繰り返し繰り返しの 11 年目ということになっております。その都度課題は変わりつつもそれぞれの応じた課題があり、それについてのご提言をいただいたからこそ 11 年も続けることができたな、と感じているところです。</p> <p>皆さまもご承知かと思いますが、現在国の方がまるで新潟市のパートナーシップ事業を追いかけるかのように地域との連携協働をより一層進めるようにということで、法令の改正に今年度動き始めています。また社会教育法の一部改正により、社会教育主事有資格者の講習が今度は社会教育士という資格にかわる。しかもカリキュラムの中には学校との連携という内容が入ってくるということで、生涯学習・社会教育の考え方も変わってきているということです。その中には私どもパートナーシップ事業が目指す姿が盛り込まれているような方向性になっていることを聞いて、新潟市は皆さまからのご支援をいただきながらスタートしてきたことが国全体にも影響を及ぼしているのかなということで逆に私たちはきちんとより一層やっていかななくてはならないなと思っております。</p> <p>本日は今年度の成果と課題をご説明申し上げます。これにつきまして忌憚のないご意見を頂戴して、来年度以降の事業運営に役立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>また後半は一部の委員の皆さまからお残りいただきまして、地域と学校のウェルカム参観日の選考をさせていただきたいと思っております。そちらの方もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは短い時間かもしれませんが貴重なご意見をちょうだいできればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
枝並補佐	<p>協議会の前に資料の確認をさせていただきます。事前配布資料といたしまして 1 冊お送りいたしました資料があるかと思っております。本日の配布資料といたしましては次第と座席表、あとこちらの資料の追補版をお配りしておりますが、不足の方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>これから会議に入りますが、本日の会議は 11 時終了という予定となっております。そのあとのパートナーシップの選考会議の集計のためにあの衝立の後ろに職員のしゃべり声が聞こえるかと思っておりますが、ご了承くださいと思います。</p> <p>それではここから先は委員長の方にお渡ししたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
丸田委員長	<p>ではどうぞよろしくお願いいたします。次第に沿って進めてまいります。今ほど補佐からお話がありましたように、11 時を目安といたしておりますので、議事の円滑な進行についてご協力をいただきました</p>

	<p>と思います。では議事の（１）になります。平成 29 年度の事業の成果と課題について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>宇ノ井指導主事</p>	<p>副参事指導主事の宇ノ井修二でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは先にお送りさせていただいた資料の追補版ということで、本日資料をお配りさせていただきました。そちらの方をご覧いただいたほうがよろしいかと思ひます。内容的な変更はございませんが、最初にお送りした資料では各学校からの数字がまだ出そろっていませんでした。完全にそろった状態が追補版の方の数字でございますので、そちらをご覧いただいたほうがよろしいかと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは追補版資料の 4 頁からご覧ください。そちらに本年度事業の成果を記載いたしました。まず 4 頁でございます。</p> <p>実施校数は統合により 1 校減の 166 校です。左下のグラフにお示ししたものでございます。隣のコーディネーター数に関しては 297 人、これは現段階でございます。年度途中に複数制を取り入れて加わった学校さんもございますし、逆にコーディネーターさんのご都合などでやめて行かれたかたもおられます。現段階 297 ということでございます。</p> <p>右側 5 頁に移ります。本年度の事業にかかる研修ということで一覧にさせていただきました。</p> <p>①です。第一回研修会を 3 会場において行いました。参加対象者は学校担当者、職員です。地域教育コーディネーター、そして学社民融合支援主事、図書館職員ということで、総勢 522 人の参加でございました。</p> <p>②第二回研修会についてでございますが、参加対象が校長でございます。195 人の参加でございました。</p> <p>③第三回の研修会、こちらは春と違ひまして小学校、中学校別に開催し、それぞれのグループの中で情報交換会を行いました。参加人数 493 人でございます。</p> <p>④新任コーディネーター研修についてです。参加人数として 48 人、45 人と 2 回実施いたしました。この中には新任コーディネーターをそれぞれの区で指導的な立場から指導助言をする、アドバイスをするという事でアドバイスコーディネーターからも参加していただきましたが、その人数も含めた参加人数でございます。約 10 人のアドバイスコーディネーターが参加しました。</p> <p>⑤研修幹事会についてです。各区から選出され小学校 1 人、中学校 1 人を基本とした研修幹事による区研修を実施いたしました。そのための研修幹事の研修会でございます。これが 7 月 3 日と 1 月 26 日の 2 回実施したものでございます。</p> <p>6 頁をお開きください。今ほど申し上げました区の研修幹事を中心として、それぞれ区で行う研修会、巻末の 19 頁をご覧くださいと各区でどのような区ごとの研修を行ったかという一覧表がございます。こちらを実績としてご報告申し上げます。各区 3 回～5 回の研修を研修幹事さんから計画していただき、実施してまいりました。</p> <p>それでは 6 頁に戻ってください。⑦教職員研修に関して、そこにお示しした 1～5、新任教頭とか校長とか 12 年経験者とか初任者あるいは事務職員などを対象に研修を実施してまいりました。</p> <p>研修会についてのアンケート調査が以下に 4 つの円グラフに示してございます。何よりも本年度の研修の中で一番反響が大きかったのが新任コーディネーター研修でございました。新任の皆さんが 6 頁下の四角のなかに囲まれたような、そのような声をお寄せくださいました。自分だけで悩みを抱えておられる新任のコーディネーターさんにとってアドバイスコーディネーターがおられるということがどれだけ心の頼りになったかがここから見えてとれます。</p> <p>このまま続けて説明させていただきます。</p> <p>(3) 本事業にかかる調査ということで、4 つの調査を行いました。①は新潟市全体で行っております生活・学習意識調査でございます。ここから当課に係る項目を抜き出しました。②地域と学校</p>

パートナーシップ事業そのものに関する意識調査、これが12月に実施したもの、アンケート調査でございました。③事業報告書、3月の中旬までで全学校が出そろいました。ついこの間出そろったところでございます。④勤務実態調査、これは11月に実施いたしました、コーディネーターがどのような勤務を行っているかということ調査させていただき、まとめました。

それではそれぞれの項目ごとにご説明いたします。

まず①の新潟市生活・学習意識調査についてが7頁にまとめてございます。例えば小学校では「地域の大人とあいさつしたり、言葉を交わしたりする」という項目について、小学校だけではなく中学校もそうなんですけれども、年々上昇しております。つまりパートナーシップ事業の成果がこういったところにも現れているんだろうなと私どもは考えております。下の二つのグラフについては「地域や学校で先生以外の大人からほめられたり、認められたりして、うれしいと感じる」、このような項目では小学校中学校ともにまたこれもかなり上昇しております。年々上昇してきております。これが事業の成果であるという風に考えておるところでございます。

それでは8頁をお開き下さい。調査の内のアンケート調査についてです。このアンケート調査は教職員やコーディネーターあるいは学校支援ボランティア、そして地域団体などにとった調査アンケートでございまして、これから説明するところでたくさん出てきますが、ご理解いただければと思います。

まず8頁に載っている6つのグラフは教職員に対しての調査の結果でございます。「学力向上にこの事業が繋がっている」と考えている教職員が、これだけ肯定的な評価があります。例えば小学校で言うと94%ほどでございましょうか。中学校でいうと83%以上、それだけの職員がパートナーシップ事業が学力向上につながっていると評価しております。そして「社会性」が2段目、「自己肯定感」が3段目です。それぞれ高い数値で示されております。特に社会性にいたっては小学校の社会性のグラフをみるともうこれ以上上がりようがないという風にも感じているところでございます。社会性の育成にパートナーシップ事業が貢献しているということです。

右側のページには学校支援ボランティア、そして地域団体のアンケート集計結果を記載いたしました。例えばボランティアですと一番上のグラフ「子どもから喜びや元気をもらう」、「活力・意欲につながる」、あるいは自分自身の心をさらに成長させていくことにつながる「役立っているという実感」という項目に関しても同じような結果が得られています。

ちょうど真ん中にありますグラフから「生きがいや生涯学習になっていると感じる」と評価している学校支援ボランティアさんが、これだけたくさんおられるということも分かります。

地域団体さんについては「学校と地域の結びつき」という点が下から2つ目のグラフです。高い数値です。一番下が「子どもが地域のことに興味を持ってくれていると感じる」という地域団体さんもかなり多くございました。生涯学習・社会教育の視点からも事業に意味があるということがこのページからお分かり頂けたかと思えます。

それでは10頁をお開きください。

コーディネーターが「どのように事業を感じているか」というアンケート結果です。保護者の理解が深まっているという項目に関して、小学校の方でちょっと数値が下がっております。もしかするとコーディネーターさんが保護者に働きかけたときに協力が思うように得られていないということから連携協働の意義を理解していないのではないか、とコーディネーターが捉えているということがうかがえます。

地域住民の理解についてが上から二段目のグラフです。おそらくもっとボランティアに来てほしいんだけど協力者が増えにくいという現状から、このような数値に留まっているのではないかと、決して低い数値ではないのですが、このような数値に留まっているのではないかと考えているところでございます。

11 頁をご覧ください。「パートナーシップ事業を進めるに当たり、課題になっていること」のアンケート結果でございます。上段は全体です。中段をご覧ください。中段は教職員が課題として感じていることです。本年度も一番上の項目が「教職員の理解」となりました。教職員自身が教職員の理解が足りないのではないかと課題に感じているということです。

ただ本年度の研修の中で、教職員自身が教職員の理解が足りないと感じているということを盛んに申し上げ、各学校で研修会などを実施していただくようお願いをいたしました。このグラフでは小学校の方で 10.9%、中学校の方で 16.7%と出ております。が、昨年度は実は小学校は 12.3%でございました。中学校の方は 17.3%でございました。つまり研修会の中で働きかけたことが有効に役に立ったかなというふうに思っております。

事業の概略は理解しているんだけど、地域と連携することの効果や良さ、意味をもしかすると理解し得ていないのかもしれない。あるいは労力との天秤にかけているのかという風にも感じるところでございます。

一番下はコーディネーター自身が課題に考えているところです。トップに「地域、保護者の理解」と上がってきました。昨年度も同じような数字があがっています。何とか広報活動を充実していかなければいけません。ただコーディネーターの一番下のグラフなんですけれども「教職員と地域のコミュニケーション」というものがございます。これが今回上から 7 番目に位置しておりますが、実は昨年度は上から 4 番目にありました。数値でいうと本年度小学校は 9、中学校が 8.6 だったんですが、昨年度は小学校 12.5、中学校 11.6 でございました。これが本年度の研修の成果であったなと感じているところでございます。

それでは 12 頁に進みます。ここのページの数字が前回お送りした数字と大きく変わっております。特に中段「のべボランティア数」について最終集計結果がこの数字でございます。276,309 人。そして「のべ事業数」52,495 ということでございます。学校割をいたしますと、昨年度は 1,611 というのべボランティア数でした。本年度ののべボランティア数を学校割にいたしますと 1,664 ほどでございます。

一番下の「地域貢献活動実施校の推移」についてです。ちょっと太くしておいたんですけれども、お示しのように地域防災に関する取組みが各学校さんでかなり進んでいるということがこのグラフからわかります。「その他」の項目がかなりあがっております。この「その他」というところには、例えば「元旦マラソン」、学校で実施したということです。「元旦マラソン」とか「職場体験」、「地場産食材レシピ」とか、「名産品開発」とか、「保育園児との交流」などがあがっております。

右側のページに移ります。コーディネーターから得た勤務実態調査の結果でございます。「この調査をどのように活用しているのかが分からない」という自由記述がコーディネーターさんから寄せられました。「このような調査やアンケートで時間がとられる」という風にも訴えておられるコーディネーターさんがおられました。つまりこれらのグラフ、例えば上から 2 段目、標準配当時間などで見ますと、時間が足りない、もっと仕事がしたいというふうに感じておられるコーディネーターさんがたくさんおられます。そのような方々の自由記述であろうと、先ほど私が申し上げました「このような調査アンケートで時間を取られるのが非常に苦しいんだ」と、そういう訴えも理解することができます。仕事もかなり多くなっているし、地域からのニーズも多くなっている、そして学校職員からのニーズも多くなりつつあるということが、これらの表から理解できます。

14 頁をご覧ください。複数制を取り入れている学校さんのコーディネーターから得た結果でございます。すみません、数字がはっきりしておりません。一番上の 3 (1) 一番右上が 100 でございます。3 (2) これも 100 でございます。3 (3) は右上が 200 でございます。ここだけ複数回答、複数選択が可となっておりますので 200 です。3 (4) にかんしては 100 です。

複数制を取り入れている学校が非常にうまい具合に機能しているということがわかります。肯定的

に捉えておられる方がとてもたくさんおられ、ある方の声では「もう一人制には戻れない。それくらい複数制が良いんだ」と複数制の良さを実感しているというコーディネーターの声もございます。

15 頁についてです。本年度、文部科学大臣表彰をまた新潟市から 2 ヶ校受賞することができました。笹口小学校と新津第一小学校でございます。12 月 7 日に文部科学大臣表彰を受け、私も同行させていただきました。

最後（5）です。「市民への周知・広報活動」について。区だよりの掲載が 45 回に上りました。ただアンケート調査などでは「広報活動が不足しているのではないか」という声もございますので、色々な方法でさらに広報活動を取り入れていかなければならないと感じております。

16 頁をご覧ください。「関連事業」として、今年度行ってまいりました「ドリームプロジェクト支援事業」を掲載いたしました。その広報活動の一つとして私たちは位置付けておったところがございます。例えば③地域と学校ウェルカム参観日アンケート結果に見られます、地域住民や市民の参加数を見ますと平成 28 年度で 2,995 人、平成 29 年度で 2,619 人、かなりたくさんの方の地域住民、そして市民の方が参加してくださいました。非常にありがたく思います。ただそのすぐ下にある円グラフ、一番大きい場所が「知っているがよく分からない」という声でございます。何とか広報活動を進めたいと、現段階でもリーフレットを各学校さんにお配りしているところでございます。

さて 17 頁下段の「成果と課題」についてご説明申し上げます。文末のカッコ内の数字については関連するページを記載いたしました。後ほどページなどをお開きいただき、ご確認いただきたいと思います。まず子どもにとっての成果として、学力の向上、社会性の育成、そして自己肯定感の伸長に大きなつながりがある、という評価でございます。

②地域にとって、中学校での防災訓練、そして福祉関係などに関する地域に対する貢献の取組みが非常に増えてきたということが成果でございます。めくってください。最後 18 頁です。地域にとっては「元気をもらう」「生きがいになる」、先ほどもグラフの紹介で申し上げましたが「住民同士の結びつきが強まる」というそのような効果も得られております。

学校にとって、そして社会教育施設にとってはお読みください。

(2) 29 年度の重点的な方策からみた成果として以下にお示しいたしました。③をご覧くださいと思います。特色ある教育活動と市民への周知の推進、これについてですが、地域と学校ウェルカム参観日を拡充した結果、多くの保護者、地域住民に事業を周知するきっかけとなったと捉えることができます。来年度も先ほどの話のとおり形を少し変えて実施していこうと考えているところです。

最後の(3)です。今後の課題と事業推進の方向です。事業開始から 10 年が経過します。来年度から 12 年目となります。「学・社・民の融合による教育」の意義を学校と地域が再確認し、持続可能な事業として継続的に充実が図られるようにしていきたいと思っております。これまでは拡大拡大という風に考えておりましたが、これからは持続可能ということをぜひ前面に押し出した研修会などを実施していこうと思っております。

③です。保護者や教職員の事業に対する理解を一層促していく必要があると考えております。そのための研修会なども、研修会でそのような内容もさらに伝えながら実施していこうと考えているところです。そのほかに関してはお読みいただければと思います。

以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

丸田委員長	<p>ありがとうございました。すばらしいですね。</p> <p>では 29 年度の事業成果と課題についてご質問なりご意見があれば承りたいと思います。</p> <p>なお、次年度に向けてについてはこの後時間を取って意見交換することになっておりますので、まず 29 年度の事業の成果と課題について、ご質問ご意見をお出しただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>指名はしませんので、どうぞ、質問なりご意見なりお出しただければ。</p> <p>とはいえあれでしょうかね、小島さん・・・</p>
小島委員	<p>資料をこんなふうに見やすいようにまとめていただきましてありがとうございます。</p> <p>気になったというか、コーディネーターの勤務時間が足りないというアンケート結果についてなんですけれども、私自身も一人でやっていたときは実はものすごく勤務時間が足りなかったんです。なぜか一人の時は足りなかったんですけれども、全部やらなきゃいけないというのもあり、余計なこともやっていた。それが二人になって、「二人になって良かった」というのがここにも出てるんですけれども、実は二人になったことで一校あたりで勤務時間が決められているので、私個人の部分は半分になったわけですね。一人で働いているときよりも。半分になったことで、自分の中で仕事をセーブする気持ちも生まれたし、仕事を割り振るという作業の中でこれは要るいらぬ、これは先生がやるべきという線引きができたので、それぞれコーディネーターさんたち個々の考え方があります。私も色々なコーディネーターさんと話す機会もあり、1 人が良いというコーディネーターさんも実際おられます。そういう方たちに 2 人にとというのはまだまだ時間をかけていかなければいけないと思うんですけれども、私個人的には経験者として 2 人になったことは実は勤務時間が足りないわっていうのももしかしたら考え方を変わると、押えて行けるのかなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
丸田委員長	<p>今の点について事務局の方の認識といたしますか、現状の認識についてコメントがあれば。</p>
宇ノ井指導主事	<p>ありがとうございます。複数制に対して今ほどおっしゃっていたように小島委員の方からご意見として出されたように、複数制に踏み切ることによって二の足を踏んでいる学校さんも確かに多くございます。そういったところに複数制を取り入れた学校さんの良さや利点などをできるだけ紹介しながら、また来年度も推奨していきたいと考えております。</p>
丸田委員長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
種村委員	<p>小島さんのところはコーディネーターは 2 人なんですか。(2 人です。) 2 人なんだ。わかりました。味方は最初 2 人で、他の 7 校は 1 人で始めたんですけど、味方は最初から 2 人で始めました。そういう区分で良いんだとは思ってましたけど、1 人でやりたいという方もいらっしゃると思いますけど、まあ 2 人だと、色々なつながりもあるからボランティアも呼びやすいということで、複数の方が良いかなと私は思います。</p>
丸田委員長	<p>複数制のメリットも今お話しいただきましたが、他にいかがでしょうか。</p>
渡辺委員	<p>コーディネーターさんのお話を聞いていて、1 人から 2 人体制になった時はやっぱり仕事をどういう風に振り分けたいか分からなかったりとか、パソコンが一台しかなくてちょうど仕事がうまく回らないこともあったみたいな話もちょっとお聞きしたことがあったんですけども、2 人で考えることによって行事とか色々計画を立てる幅ができたというか奥行きができたし、今は分担も上手くいっていて、すごくスムーズにいらぬという話をお聞きしたので、幅ができたというか奥行きができたというのは子どもたちにとっても良いことだと思うので、2 人体制になってよかったんだなと思いました。</p>
丸田委員長	<p>他の委員の方いかがですか？</p>
小島委員	<p>さっきの複数についてどうしても 1 人が良いという方の意見の中のある一つが、複数になるということは気の合う方と、仕事の進むスピードであったり価値観ですよ、そういったものが一緒じゃな</p>

	<p>いと中々同じ歩幅で進むことができないので、なので複数にする時のデメリットとは言いませぬけれども、誰とやるのか、どんな形でできるのかって、そこが一番大きな問題であって、でもそれは周りからは決められることではなく、現在やっているコーディネーターさんがもう一人加わるところであれば、そこは自分がやりやすい人を連れてくるしかないのかなと。</p>
丸田委員長	<p>今の点については行政の方で複数制に移行するときに、あるいは複数制を継続してる中でコーディネーターが変わる方が変更したりするときにどのような配慮と言いますか、工夫をいただいているのか、少し皆さんの情報共有できれば、お願いします。</p>
宇ノ井指導主事	<p>基本的には各学校に設置してあります、推進会議でコーディネーターを選任します。つまりその推進会議の中で座長さん、地域の方なんですけれど、座長さんから選任されて我々に上がってきます。そういった推進会議の中ではもちろんコーディネーターさん、今いる一人のコーディネーターさんがコンビを組んでやっていけそうな方も当然選ばれてくるでしょうし、あるいは地域のことを良く知っているとか、学校教育について理解があるだとか、色んなネットワークを幅広く持っているだとか、色んな観点から選ばれます。その時にこの方を採用することで複数制になるという時には、やはり学校さんも今ほど小島委員がおっしゃったようなところが一番配慮してくださると思うんです。配慮していただけたとしても、やはり2人で一つの仕事を進めるという点に関してはその2人がそろった時の2人の人間関係の中でまた進めていただかなければいけませんので、色々と考えていかなければいけないなと思っております。</p> <p>ただ複数制になったということに関して、先ほど渡辺委員さんからもお話をいただきましたが、ネットワークが広がったというお声が非常に多いです。一人が持っているネットワーク、そしてもう一人が持っているネットワーク、つまり2倍になるというところが一番の利点なのではないかと私個人的にも思っております。以上です。</p>
丸田委員長	<p>分かりました。他にいかがでしょうか。</p> <p>もしご発言がないようであれば、この後次年度に向けての意見交換が大変有効だろうと思っておりますので、では意見交換に移ってよろしいでしょうか。</p> <p>では次年度に向けまして率直なご意見をいただきたいとおもいます。いかがでしょうか。</p>
伊比委員	<p>新通小学校の伊比でございます。お世話になっております。</p> <p>パートナーシップ事業のことについて、会議に出るといつもいうんですけど、やっぱり名称が文科の補助事業の名称が変わったんですけども、現に行われているのは学校支援という色が非常に強いと思っています。それはさっきのアンケートの結果のご説明でもありましたけれども、教職員の理解が中々進まない、10年経ってもですね。それは27年の12月21日に中教審が出した答申の一報に、初等中等教育局と生涯学習局が初めて一緒に作った答申の中で、これからの学校が備えなければならない3つの要素として、熟議と協働とマネジメントとあったのですが、協働についてはほぼ新潟市の小中学校は取り組まれていると思うんですけど、その1番の「熟議」というのがやられていない。目的の共有も図られていませんし、役割分担も図られていませんし、当然学校が作った計画をコーディネーターにお願いをしてボランティアさんにやっていただいているというのが現状だと思っています。最終的には地域貢献につながるかどうかというあたりも、学校としては「これが課題だから今年度はこれを重点にやっていきたいんです」、地域は「子どもを見た時にこれが課題だと思っているので、これを学校と一緒にやりたいと思っているんです」、同じように保護者もそういった面で「これが課題だから優先で今年度これを重点にやりましょう」というまず共通の土台を中々持っていないところがほとんどかと思っていて、私たちも全体には働きかけなかったですが、街づくり協議会のところに地域の方とか保護者の方とか職員も出るので、そこで今年度やらせていただいたんですけど、時間がかかって忙しくなるという場か、懸念があるかもしれないんですけど、その最初の段階が行われていないので一年間が事業数が増えるけど、やっぱりマネジメントとしても教育課程の中、しっかりと位置付け</p>

	<p>られている学校っていうのは少ないかもしれない。教科領域の中でどうやって地域と連携協働を取り込んでいって子どもたちにどういう力をつけさせるんだ、で評価もしっかりできていない。アンケートで褒められてうれしかったというのが評価かという、事業を使ってやっているわけですので、この活動を通して、例えば道徳的な内容項目の尊敬であったり公共の精神であったりというのが、いわゆる前はこんなだったけどやったらこんなになったよとか、そういう評価というのができていない。なので12年目を迎えるにあたって、時間がかかることだと思うんですけど、最初のスタート、熟議をやりましょうよというのはどうしてもやっている学校には働きかけていただきたいと思いますし、評価はあなたの学校はどんなふうにやっていますか、というあたりもやっぱり大切なのかな。それはこの事業が生き残る一番の鍵なのかななんて思っていました。</p>
丸田委員長	はい、ここはコメントありますか。
緒方課長	<p>伊比委員から貴重なご意見頂戴しました。ありがとうございました。</p> <p>これまではどちらかという何のイベントができたか、その回数はいくつだったか、ボランティアさんが何人きたか、そういう視点がこれまでの事業運営の中では多かったと思うんですけども、今伊比委員からいただいたのはその本質的な部分、子どもの学びや地域の本当の為になっているのか、というそのための方策と検証をなささいというご指摘ではなかったかなと思っているところです。</p> <p>私たちは拡大から持続へということで昨年度からスタンスを変えているところなんですけど、まさにその部分、量じゃなくて質に入ってくる、そしてその成果に入ってくるというふうに考えているところです。</p> <p>今年度実は地域学校連携の加配教員がついた学校が一枚だけございます。その学校が調査をかけました。「どのような変化がありましたか」実際伊比委員がおっしゃったように熟議を入れていらっしゃる。地域と先生方、その仲立ちをコーディネーターさんが一緒になって、学校が何を目指しているか、地域は何を求めているか、そのためにはどんな活動がふさわしいか、ということで初めて〇〇小学校応援団の会議というのをはじめたそうです。</p> <p>この中でたくさんのご意見が出ていく中から、今のうちの学校に必要なこと、できることはここですからこれをやりましょうということを地域の皆さんと共有してこの一年進めたというお話でした。その結果、非常に整理がされた、そして最終的にはコーディネーターさんのお仕事も整理されて、今回時間が余っちゃったんですという返事がもらえるほど、非常に学校の役割、地域の役割、コーディネーターの役割が整理されたというふうに聞いています。</p> <p>伊比委員がおっしゃったことが正にある学校では具現されているかなとと思ってますし、このような好事例をこれから広げていき、各学校に促していくのが私たちのお仕事かなとっております。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
丸田委員長	ありがとうございました。ではいかがですか。
種村委員	<p>そんな中であの、南区で先月研修会に私は講師でよらせてもらったんですが、それにおいてその中で南区は大学もない、元職員の方とかそういう方も少ない、そして高校もなくなりそうな地域ということで、なかなかボランティアの質だとかそういうのじゃなくて集めにくいという、学生とかそういう元教職員の方とかそういう人たちがなかなか集まらないけど、皆で一生懸命やっているんだから、そういうところも理解してもらいたいという話も聞きました。</p> <p>あともう一つ、また来年度、三百三十何万ですか削られるって話で、時間が減らされるのか、また備品が減らされるのか、またはっきり前もって聞かせてもらえればありがたいということも言っておられましたので、ぜひその点をよろしく願います。</p> <p>あともう一つだけ、パートナーシップ事業の広報活動、確かに一生懸命やって広がってます。私前から言ってますけど、自治協議会よりもパートナーシップ事業の方が皆さん良く知ってられると思いますので、ぜひ頑張ってほしいと思います。以上です。</p>

丸田委員長	自治協議会というのはこのパートナーシップ事業のことが話題になったり、それから一年間の成果が自治協の委員さんにきちんと伝えられるような場というはあるんでしょうか。
種村委員	あんまりないみたいですよ。
小島委員	中央区は教育委員会が来るのが、教育ミーティングが…（教育ミーティングはあるわね）、そうそうそのときにパートナーシップ事業のことが自治協の中で話される。
緒方課長	今年度実は自治協の中で年 2 回教育ミーティングのテーマが地域との連携になりましたので、そのことを話題にさせていただいて、お話しをさせていただいております。今後より一層自治協等の取組の中でもご紹介をしていかなければいけないなと思っております。
丸田委員	そうですね、ぜひよろしくをお願いします。
小島委員	<p>今のお話の中で少し懸念されることというか、今年度は私は自治協議会に関わってなかったんですけど昨年度まで関わっていて、教育ミーティングをした中で各コミュ協の会長さんたち、代表の方が参加し、どうしてもコーディネーターを比べることが結構たびたびあったんですね。中央区の中では。ここの学校のコーディネーターさんはするけどここの学校のコーディネーターさんはしないとか、そういう風に比べられるものではないのを私はそこでも言ってきました。それぞれの学校の色があって、地域の財産はそれぞれの学校が違って、教育方針もそれぞれ違うからどこ、誰がいいとか悪いとかではないということは言ってきているんですけど、中々そういった部分がまだ浸透していないところがあるのかなということは感じているし、今年も別なコーディネーターが代表として中央区の自治協に行ってくださいているんですけども、やはりそういう声が上がってくるので、そこはまだまだこれから発信していかなければいけないのかなというのを思っています。</p> <p>あともう一点、予算うんぬんについてはそれこそ種村さん同様私も初年度からなので、あの頃は予算がなくなると三年後にはなくなると言われてコーディネーターになったので、いつかはなくなるという覚悟でずっと、ずーっとそれでやってきてるので、まあ減っていくのは仕方ないかなというか、他の自治体、自治体と言いますかね、横浜であったり、千葉であったり、世田谷であったりは、このような行政が充分支援しているというのは本当に新潟市は特別だと思っているので、本当にありがたいことだと。今でも減るとはいえ予算を付けていただけるといのは本当にありがたいことだと思っています。今後予算が減る中で、じゃあコーディネーターさんたちが満足できる形にするには、今現在小学校と中学校を分けてコーディネーターを配置してますけれども、小中連携という言葉もありますので、やはりできれば早いうちに中学校単位の支援事業みたいなものの組織にして言うことで、コーディネーターの数も減らすことのできる、小中連携も取れる、最初立ち上げるときは多分みんな苦しみはいっぱいあると思うんですけども、できれば小学校と中学校が一緒に活動できる、それがまた地域のためにもなるので、地域貢献にもまたそれもつながっていくと思うので、そういったことも視野に入れて来年度考えていただければいいなと思っています。</p>
丸田委員長	今のようなことは行政の中で意見交換とか議論のプロセスはあるんでしょうか。
緒方課長	<p>まず予算面についてはご存じのとおり、新潟市は財政状況が厳しい状況でしたので 30 年度予算を削らせていただくことになりました。結論からいうと需要費、物品を購入する予算を削らせていただきます。標準配当の実数は何とか維持をすることで財務とのやり取りはさせていただいておりますが、これからも働いていただいた分だけとは中々いかないんですけど、頑張っていきたいと思っています。</p> <p>それから小中については小島委員がおっしゃるとおりで、実は小学校と中学校のコーディネーターが連携していくことが一つの学校区として子ども達、社会を支える基盤としても大事な視点だろうなという風に思っています。複数制を敷いて小中相乗りをしているコーディネーターさんたちがいらっしゃるんですが、これはすごく良い効果があるという声もあるので、この点についてはいただいたご意見をまた今後に生かしていきたいなと思っております。</p>
丸田委員長	よろしくをお願いします。他にありますか。

三保委員	<p>3点ありますが、先ほどのアンケートの中でパートナーシップ事業の課題となっているところで、教職員の理解というのが教職員の方々から一番にあがったというところで、それで終わりかなという感じがするんですけども。第二段階とすればどういう教職員の方の理解が何なんだろうかなというところの分析が、例えば校長先生・教頭先生みたいな管理職の方なのか、ベテランの先生なのか、中堅先生なのか、新任先生なのか、その辺の分析をして今度研修の中に集中的に突っ込んでいくというのがこれからの課題になるんでないかなと思います。</p> <p>それから社会教育施設との連携ということでコーディネーターさんがちょっと難しいと思っているのが、今年は図書館からも研修に出させてもらいまして、図書館の職員が何で私たちがそこに行くの？という風に言われたんですけど、館長レベルでは大分わかってきて来てくれているらしいんですね。でも具体的にどうしていいかっていうのがまだ分からないので、これはおいおいと研修を受ければわかってくると思うんですけど、例えば公民館とかそういう社会教育施設との連携についてはモデル的に頑張っているところを全体に情報提供していくなり、真似してもらえるような工夫が必要かなと思っています。</p> <p>また社会教育施設ってのはどんなのかという認識が学校には浸透してないのかなという気もするので、その辺の協調が必要かなと思っています。</p> <p>それから一番懸念しているのが、ドリームプロジェクトと大好きにいがたの予算が合体されちゃったことで。だいたい学校の先生たちは大好きにいがたの方に重点を置いていっちゃうんじゃないかなという気がするんですけど、学社民の融合という視点を必ず取り入れるということは、たぶんそちらの課の方々のこれから大きな役割になっていく、今までは別々だったから、ああこういうところはこういうねらいで申請すれば良いなっていうのはあったんですけど、一緒になっちゃうとどんどんこっちにひきづられていくんじゃないかという懸念がありますので、その辺は懸念を払しょくいただけるようお願いしたいなと思っています。</p>
丸田委員長	意見として頂戴して、とはいえ学校の先生方のご理解ですとか意識をちょっと質的に捉えてという時に何かヒントなりご意見ございますか。
伊比委員	<p>本日ご出席の学校人事課の吉田管理主事先生からもご指導いただいたんですが、うちの学校は本当にひとが足りなくて、どこの学校もそうです。ほとんどの教員は今までの意識でいうと、新たに地域との連携協働を進めるには時間も労力もかかるであろうと。そういったときに16:45が退勤時刻になっていますが、それはどこでも絵に描いたというか、無理なわけです。これ以上時間を割かれるんじゃないかという恐れがあったと思うんですね。今年度9月25日からうちの学校は月曜から金曜まで、10時から12時に2人ずつボランティアの方が入ってくださっているんです。これは先生お助けボランティアという方々なんですが、実働土日長期休業をどけると87日間で、140時間分の教職員の業務軽減をやっていたいたんですね。これは教員がやらなくてもお願いできる部分、印刷であったりとし込みであったり配布であったり、そういうお仕事をやっていただいています。そうすると教職員の理解、この前2回目のそのボランティアの方々の反省会をやったんですけども、教職員に一人ずつメモを書いてくださいと。やっていただきましたよね。140時間くらい助けてもらいましたけど。そうするとメッセージを見ると、おかげで健康で過ごせましたと。やっぱり自分たちにとっても、助けていただいていたありがたかったなというのが一番理解を進めるには私は良いと思いました。</p>
丸田委員長	今の世の中、学校マネジメントも大変良い事例としてご理解を各学校からいただくということも必要なんじゃないでしょうか。
緒方課長	学校人事課の方も多分、教員の多忙化解消のこともあるかと思いますし、地域連携協働が負担ではなくて、逆に役割分担ができて学校運営上も良いのだということを経験にまたがりつつ進めていく必要があると私は思っていますが、吉田管理いかがでしょうか。
吉田委員	今ほどのご意見は私は同じことを感じていたので、教職員の理解について少しご意見を述べさせて

<p>(田村委員代理)</p>	<p>いただきますが、ちょうど 11 頁のグラフを見ていてあれっと感じたんですけれども一番下のグラフで、コーディネーターの立場で一番上の項目の「地域、保護者の理解」が課題だと感じるってのはとてもよく分かります。協力していただけたら、まだまだたくさんの方に関わっていただきたいという思いがこういうところに出てくるんだろうなと思うんですが、真ん中のグラフの教職員が自分を振り返って「教職員の理解」といった時に何を指しているのかなというのは、私も分からなかったんです。この中身をより細かに分析していく必要があるのかなと思いました。そのヒントとして今伊比委員のほうからもお話をでてきましたが、二項目めに教職員の負担軽減という項目も出ているので、そのあたりも恐らく関連してくるんじゃないかなと思っています。</p> <p>もう一つは小学校と中学校で教職員の理解に対してはすごく差があるんですね。ですからそこもやっぱり学校種に応じた動きの違いがあるかもしれないので、良く見ていく必要があるのかなということを感じました。以上です。</p>
<p>丸田委員</p>	<p>いかがですか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>特にこの中学校の教職員の理解がですね、足りないんじゃないかっていうことなのかな、課題なっているということなんですけれども、例えば私の学校では今年度周年行事が 70 周年がありまして、ここでは本当に地域教育コーディネーターの方々が地域の方、過去の卒業生で有名な方ですね、色んなところで活躍していらっしゃる方からビデオレターの的なものを取っていただいたりというふうなことで本当に大活躍してるんですけど、もしかすると職員の意識の中ではそれは学校という組織のなかで役割分担としてそのコーディネーターの方々がやってくれてるという意識があるのかなという気がするんですね。実際にはコーディネーターが組み込まれてしまっているというんでしょうかね。そういうところがあって周年行事なら周年行事の中の一部分をコーディネーターさんが担ってくれてるのが、当たり前のようにもしかするとなっている可能性があるかなと思います。同じように体育祭、合唱コンクール、様々な行事の中でコーディネーターさんが学校の職員の一部というふうになっている、その意識があるかもしれない。そのあたりをもっとコーディネーターさんが影の部分でこんなふうに頑張ってくださいってという部分をもっともっと周知していく必要があるのかなということを感じますし、独自に公民館との連携で例えば味噌作りみたいなのをうちの学校の施設を使ってやったりとかやって、これはもう学校というよりも地域の方を学校に呼び寄せるとするか引き入れるとか、そういう活動としてちょっと試みてやってもらったんですけれども、なかなかそのあたりも一般の職員には十分に伝わってないというあたり。私は行ってご挨拶をさせていただいたり、お礼も述べさせていただいたりするんですけど、他の職員はなかなかそこまで足を運んでいくことが、あまりにも忙しいのもあるんですけど、できないとか。そうすると実態が分からないままだったりするので、もっともっとそのあたりを周知していく必要があるのかなと感じながら、この数字というかグラフを見せていただきました。</p>
<p>丸田委員長</p>	<p>ありがとうございました。他にご意見ご発言の無い方がでしょうか。</p>
<p>春日委員</p>	<p>社会福祉協議会の春日と言います。今日は皆さんのところに私たちのボランティア情報誌ということで 2 枚配布させていただきました。その黄色いウコンの話なんですけど、私たち社会福祉協議会でも福祉教育ということで色々地域の人とか子どもたちを福祉の心をもってもらうためにということで活動していて、パートナーシップ事業ともものすごく近いけど、全く一緒ではないけれど、かなり重なっている部分があります。それでその中で 5 頁を開いていただきまして、学校からいわれもあるんですけど、昨年福祉教育セミナーということで学校の先生、教育コーディネーターさんにもお声掛けをして一緒にちょっと学びをしましょうということでやらせていただきました。</p> <p>それでこの時に実は視覚障がい者のかたの体験ということで色んなお話をさせていただいた時に、学校の先生の方から自分たちはお年寄りとか障がい者とかそういう方たちに何か子どもたちが助けたいと思っているけれど、こうやって障がい者の人が何でもできますすごいですっていうと、自分</p>

	<p>たちのやることは何もないと思うっていうふうに言われたんですけど、ちょっとそのところで私たち社協の方で進めているのは誰かを助けてあげるというのではなくて、皆人間は弱いものなので、そこで助け合いをしていきたいと思いますという文化を進めていくというようなことを考えていまして、そういうあたりを共有するために、30年度も福祉教育セミナーを開催いたしますので学校の先生とかコーディネーターさんが出やすいように、夏休み頃に企画しているんですけど、ぜひそこに出ただいてグループワークなんかもさせてもらったんですけど、いろんなところで色んな取組みがあるということで情報交換をしていただければいいなというふうに思っています。</p> <p>社協の進める福祉教育についてはこの前段のところでも色々書いてありますので、これを読んでいただければなというふうに思っていますので、よろしくお願いします。</p>
丸田委員長	ありがとうございました。まだ、時間は大丈夫ですか？
緒方課長	はい、あと一分弱でございます。
丸田委員	<p>確かにおっしゃられたように10年という経過の中でごく当たり前のこととして役割分担が振られてしまっている、でもそれは役割分担を踏まえて伊比校長先生がおっしゃったように、何を目指していくのか、目指していく一つの価値の中に先生方の負担の軽減があったり、それから学校区の中での共通の目標に向けてどう役割分担したり、どう協力していくのか、そういう理解が必要なんだろうね。ただ役割を分担すればいいとか、一緒にすればいいということではなくて、それを通して何をその小学校なり、その地域では何を課題としてどう解決していくのかという、そういう考え方も必要なのかなというふうに改めて今日勉強させていただきましたが、いかがなものでしょうか。</p>
緒方課長	<p>大変ありがとうございました。それぞれが貴重なご提言を頂戴いたしましたので、これをまた私どもで持ち帰りまして、今後の事業運営に生かしていきたいと思っておりますし、また30年度に運営協議会でいただいたご意見でこういうふうに進めていきますというご提案をさせていただくようにしたいと思います。ありがとうございました。</p>
丸田委員長	<p>それではここで閉じさせていただきます。その他何かありますか。ありませんか。</p> <p>はい、以上をもって議事を閉じさせていただきます。この後進行をお返しします。</p>
枝並補佐	<p>大変ご多用の中ありがとうございました。以上もちまして平成29年度第2回地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を終了したいと思います。この後すぐに「地域と学校ウェルカム参観日」の認定校の選定委員会を開催させていただきますので、選考委員の方はお残りいただきたいと思っております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>